

個性を生かした学習法

「強みを生かせば効果倍増」

個別教室・家庭教師のアップル
鈴木 由美

「個性に合わせた指導」という言葉はよく使われます。といっても「できていないところ」にだけ注目し、どのようにすれば「できるようになる」かに重きを置きがちです。その一方で、個性を生かす＝得意なところを伸ばすという考えのもと、苦手な部分は無視してしまうこともよくあることです。

しかし、両方とも何か足りません。自分に自信を持って自分の得意なことにも、苦手なことにもチャレンジしようとする姿勢が身につけば、自ずと結果（学力アップ、志望校合格）はついてきます。全く性格の異なる二人のタイプをあげて考えてみましょう。

	ゆっくりさん	ちゃかちゃかさん
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくり取り組む ・確実 ・丁寧 ・何を行ったか振り返りやすい ・過程重視 ・一つに集中 	<ul style="list-style-type: none"> ・速い ・負けず嫌い ・カンがするどい ・一度にいろいろなことをおもいつく ・興味が広い
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・進みが遅い ・時間内に終われない ・競争心に欠ける ・ボーっとしている ・全部をやろうとすると疲れてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・あきっぽい ・ケアレスミスが多い ・落ち着きがない ・何を行ったか振り返りづらい ・中途半端になってしまう

保護者の方へ

個性を生かす（強みを生かす）というのは、一言で言えば長所を生かして苦手を克服するようなイメージです。それをどう実践すればいいのでしょうか。

まず長所を褒める

「ここは素晴らしいけど、ここができていない」と、短所と一緒に伝えてしまったり、「すごいねー、その調子で次も頑張って」と、励ましのつもりが逆にプレッシャーをかけてしまったりします。学年が高ければ高いほど、褒めることに徹するのは難しいものです。子どもをよく知る親ならでは、嫌みにならない褒め方をしたいですね。

短所はストレートに指摘しない

ゆっくりタイプの子に「速くやりなさい」といっても速くはできないし、ケアレスミスが多い子に「ケアレスミスをなくそう」という目標を押しつけても、ケアレスミスはなくなりません。

もちろん、時には客観的なフィードバックが大切ですが、短所というのは本人も薄々感じていることが多く、短

所が本人のやる気や自信を大きく損なわせているというケースも少なくありません。

大切なことは「具体的にどうすればいいのか」ということであって、できていないこと自体は、決して悪いことではないのです。

例えば、「ゆっくりさん」の場合、時間内に終われないというのでは困りますが、何でも丁寧にじっくり考えるということは、とても良いことです。

丁寧にじっくり考えつつ、時間内に終わるよう気をつけるにはどうすればいいのか、を知れば、ずいぶん良くなるでしょう。

アドバイスは具体的に

よく、アドバイスの例として「丁寧に書きなさい」「よく見直して」「できる問題からやりなさい」などと、声を掛けてしまうことがあります。

前にも述べたように、短所をそのまま改善させるような言葉を掛けても、そううまくはいかないことが多いようです。なぜなら、それができないから「短所」になってしまう